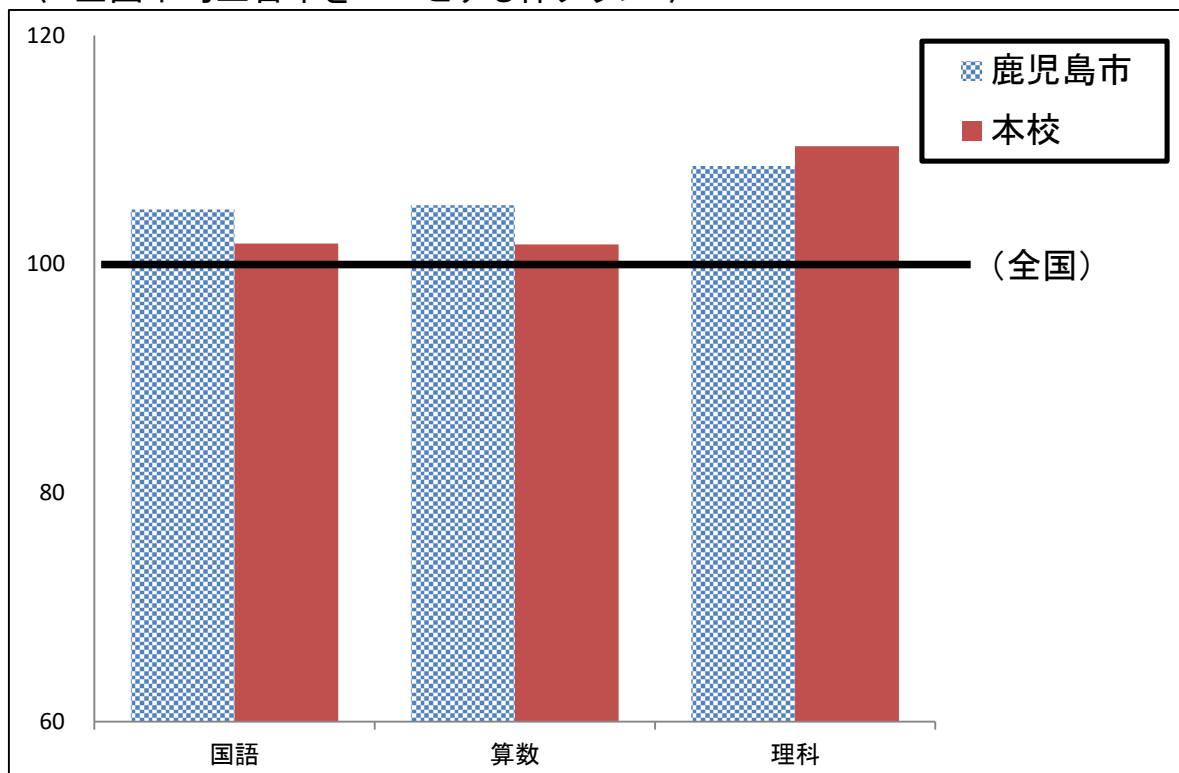


令和7年度全国学力・学習状況調査結果について

西紫原小学校

1 自校・市・全国の平均正答率の比較

〈 全国平均正答率を100とする棒グラフ 〉



2 自校の課題に対する改善策

〈国語〉

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題が見られました。これは「読むこと」の領域になります。複数の資料から読み取った情報を比較・関連付けて考察したり、自分の考えを理由とともに説明したりする場面を設定するなどの指導の工夫に取り組んでまいります。

〈算数〉

伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述することに課題が見られました。記述式の問題では無答率も高い傾向にあります。ペアやグループなど学習形態を工夫し、互いの考えを伝え合う場面や文章で記述する振り返る場面を設定するなどの指導の工夫に取り組んでまいります。

〈理科〉

身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかをみる問題に課題が見られました。これは「粒子」を柱とする領域です。実験や観察の際に、既習内容を基に予想することや結果の整理や考察において話し合い活動やデジタルツールを用いた結果の共有を行うなどの指導の工夫に取り組んでいきます。

〈全体的に〉

児童質問調査の結果から、パソコンやタブレットなどのICT機器を使って情報を整理したり、自分のペースで理解しながら学習を進めたりすることに苦手意識をもっている児童が多いことが分かりました。各教科や総合的な学習の時間でICT機器を積極的に活用し、スキルの向上を目指してまいります。また、多くの児童が将来の夢や目標をもっており、学校に行くのが楽しいと感じていることが分かりました。今後は、さらに子供の成長を見付けて認めることで、自己肯定感を高めていきたいと思っておりますので、御家庭でも温かく見守ってください。よろしくお願いいたします。